

採用年度	平成 30 年度
お名前	香川 幸太郎
派遣期間	平成 30 年 4 月 1 日 ~ 令和 2 年 3 月 31 日
領域/分科/細目	生物学／基礎生物学／生物多様性・分類
派遣国	スイス
受入機関名	Swiss federal institute of aquatic science and technology
受入機関部局名	Department of fish ecology and evolution, center for ecology, evolution & biochemistry
研究概要	近年、生物の異なる系統間での雑種形成が別系統に由来する遺伝子を混ぜ合わせることで新たな形質を生み出し、多様な種の進化を促進しうることが分かってきました。雑種形成による進化の促進は雑種形成が起きた場所だけに限られた現象に思えますが、派遣先研究室は一度の雑種形成が地理的に離れた複数の地点で種多様化を促進した事例を発見しました。そこで私は、雑種形成由来の遺伝的多様性が広範囲へと伝播し、種多様化を繰り返し促進しうる仕組みと条件を理論的に解明することを目的に研究しています。
派遣前の準備についてのアドバイス	滞在ビザ取得に関しては、恐らく派遣先研究機関を介して行うことになるので、早めに先方に確認することをお勧めします。私の派遣先であるスイス・Luzern 州では、海外特別研究員の年収では滞在ビザの取得条件に数十万円足りないという問題が発生しました（私の場合は派遣先研究所からの資金援助によって滞在許可を得ることが出来ました）。もしも年収がビザ取得に足りない場合でも不足額はそれほど大きくならないはずなので、早めに連絡しておけば派遣先機関に不足額を補ってもらい相談をする余地は十分にあると思います。また、スイスでは在住者は健康保険を購入しなければなりません。保険の購入には現地での電話番号と銀行口座が必要なので、移住直後に行うことになります。
派遣中に問題になりうることについてのアドバイス	スイスの治安は良く、私自身は研究や海外生活に関する深刻なトラブルには遭遇していません。移住直後は受け入れ機関が提供する一時的な住居に住みながら賃貸住宅を探すことになるかと思いますが、住宅を探すのに非常に手間がかかる点には注意が必要です。ウェブサイトで居住者募集中の部屋を探し、次に部屋を訪れて現居住者と話し、その後住宅の所有主に居住希望の連絡をし、希望者の中から選ばれた一人が契約するシステムで、家を見つけるまでに大抵は2～3か月かかります。また、もしも派遣先の国に既に在住されている日本人研究者が居れば連絡を取ると良いと思います。私も、現地に長く住んでいる日本人研究者にお会いした際に、生活に役立つ多くの情報を教えて頂いた経験があります。
派遣先での生活の様子	スイスでは地方によってスイスドイツ語、フランス語、イタリア語などが話されていますが、多くの方が英語も話すことが出来ますので、英語が話せばなんとか生活できます。住宅に関しては、日本人の感覚からすると家賃が非常に高いです（私が住んでいる地域では、月の家賃が 10 万円以下の住宅を見つけるのは至難です）。ただし部屋の質は値段相応に高いです。生活費用は日本と比べると2倍から3倍程度かかります。
海外特別研究員に採用されて良かったこと	海外に来て良かったことの一つは、自分の研究分野の中心地で最新の研究について議論を重ねた経験から、今後の研究に繋がるアイデアを多く得られたことです。例えば、派遣先で行っている研究については以前から論文を読んで知ってはいましたが、派遣先に来たことで、実際には論文化されていない未解決問題が多く残っている事を知りました。そのような未解決問題について議論したことが、新たな研究のテーマを見つける助けになりました。また、自分がやりたいテーマで自由に研究できることが非常にありがたいです。